



丸山 敬 教授

丸山 敬 教授 略歴

(学歴・職歴)

昭和	33年	9月	29日	大阪府に生まれる
	53年	4月		京都大学工学部建築学科入学
	57年	3月		京都大学工学部建築学科卒業
	57年	4月		京都大学大学院工学研究科修士課程建築学専攻入学
	59年	3月		京都大学大学院工学研究科修士課程建築学専攻修了
	59年	4月		京都大学大学院工学研究科博士課程建築学専攻入学
	60年	9月		京都大学大学院工学研究科博士課程建築学専攻退学
	60年	10月		京都大学防災研究所助手（耐風構造研究部門）
平成	7年	9月		ドイツ・カールスルーエ大学流体力学研究所訪問研究員
	8年	8月		京都大学防災研究所に復帰
	10年	4月		京都大学防災研究所助教授（大気災害研究部門）
	19年	4月		京都大学防災研究所准教授（気象・水象災害研究部門）
	24年	4月		京都大学防災研究所教授（気象・水象災害研究部門）
令和	6年	3月		京都大学防災研究所退職
	6年	4月		京都大学名誉教授

(学会・委員等歴)

平成	2年	4月		日本建築学会・積載荷重小委員会委員（平成4年3月まで）
	2年	4月		日本建築学会・耐風設計資料小委員会委員（平成4年3月まで）
	2年	4月		日本建築学会・積載荷重小委員会委員（平成6年3月まで）
	2年	4月		日本建築学会・風荷重小委員会委員（平成21年3月まで）
	4年	4月		日本建築学会・流体計算WG（平成15年3月まで）
	5年	4月		日本風工学会・学術研究会委員（平成7年3月まで）
	6年	4月		日本風工学会・評議員（平成22年11月まで）

11年	6月	日本風工学会・風災害研究会委員（令和6年3月まで）
16年	6月	日本風工学会・第18回風工学シンポジウム査読委員会委員（令和16年11月まで）
16年	7月	日本風工学会・編集・広報委員会幹事（平成20年7月まで）
17年	4月	日本建築学会・流体計算による風荷重算定WG委員（平成18年3月まで）
17年	4月	日本建築学会・災害本委員会委員（令和6年3月まで）
18年	7月	日本建築学会・CFD耐風設計法WG委員会委員（平成26年3月まで）
13年	4月	日本鋼構造協会・鋼構造と風研究小委員 委員長（平成19年3月まで）
19年	4月	日本風工学会・評議員（平成20年3月まで）
19年	4月	日本建築学会・外装材強風災害SWG委員（平成21年3月まで）
19年	4月	日本鋼構造協会・「風と構造物」小委員会委員（平成23年3月まで）
20年	4月	日本風工学会・運営委員会幹事（平成25年3月まで）
20年	4月	日本建築学会・CFD設計体系SWG（平成24年3月まで）
20年	4月	日本風工学会・竜巻等の突風研究会委員（平成27年3月まで）
25年	4月	日本風工学会・竜巻等の突風研究会委員委員長（平成28年3月まで）
25年	4月	日本風工学会・運営委員会委員（平成31年3月まで）
26年	4月	日本鋼構造協会・「風と構造物」小委員会委員長（平成30年3月まで）
28年	4月	日本風工学会・表彰委員会委員委員（令和6年3月まで）
29年	4月	日本風工学会・理事（令和4年3月まで）
31年	8月	太陽光発電協会：太陽光発電システムの安全設計に関する風荷重ワーキンググループ委員（令和2年2月まで）

丸山 敬 教授 研究業績

論 文（査読付き）

- 1 石崎潑雄・桂順 治・谷池義人・丸山 敬：地表面粗度の違いによる境界層気流性状の変化に関する風洞実験，第8回風工学シンポジウム，1984.12, pp.91-98.
- 2 Maruyama, T. and H.Ishizaki : A wind tunnel test on the boundary layer characteristics above an urban area, Journal of Wind Engineering and Industrial Aerodynamics, No.28, 1988, pp.139-148.
- 3 丸山 敬：粗度要素による抵抗を考慮したk-e乱流モデルによる乱流境界層の数値計算，第10回風工学シンポジウム，1988.12, pp.193-198.
- 4 丸山 敬・石崎潑雄：市街地キャノピー内の時空間平均風速の鉛直分布に関する実験的研究（千鳥状に配置した立方体粗度要素による検討），日本建築学会構造系論文報告集第394号，1988.12, pp.60-65.
- 5 丸山 敬：粗度要素の抵抗および体積変化を考慮したモデルによる乱流境界層の数値計算，日本建築学会構造系論文報告集第404号，1989.10, pp.75-81.
- 6 平岡久司・丸山 敬・中村泰人・桂 順治：植物群落内および都市キャノピー内の乱流モデルに関する研究（その1）乱流モデルの作成，日本建築学会計画系論文報告集第406号，1989.12, pp.1-9.
- 7 平岡久司・丸山 敬・中村泰人・桂 順治：植物群落内および都市キャノピー内の乱流モデルに関する研究（その2）実験データとの比較によるモデルの検証，日本建築学会計画系論文報告集第416号，1990.10, pp.1-8.
- 8 丸山 敬：粗面上に発達する乱流境界層の数値シミュレーション（流れ方向に粗度が変化する場合），第11回風工学シンポジウム，1990.12, pp.203-208.
- 9 丸山 敬：立方体粗度ブロックの配列形状の違いによる抗力の変化について，日本風工学会誌，No.49, 1991.11, pp.15-24.
- 10 丸山 敬：乱流境界層風洞の数値シミュレーション，日本建築学会構造系論文報告集第437号，1992.7, pp.135-141.
- 11 Maruyama, T. : Numerical simulation of boundary layer wind tunnel, Journal of Wind Engineering and Industrial Aerodynamics, No.41-44, 1992.10, pp.2827-2838.
- 12 桂 順治・谷池義人・丸山 敬：台風9119号による柳川市の建物被害について，第12回 風工学シンポジウム論文集，1992.12, pp.95-100.
- 13 Maruyama, T. : Optimization of roughness parameters for staggered arrayed cubic blocks using experimental data, Journal of Wind Engineering and Industrial Aerodynamics, Vol.46 & 47, 1993, pp.165-171.
- 14 市街地上空における耐風設計用気流性状の予測に関する研究，京都大学博士論文，1993年9月.
- 15 丸山 敬：市街地における粗度形状について，日本風工学会誌，No.57, 1993.10, pp.15-27.
- 16 丸山 敬・盛川 仁：乱流境界層内の実測データを条件とする風速変動の数値シミュレーション，第13回 風工学シンポジウム論文集，1994.11, pp. 573- 578.
- 17 丸山 敬：市街地上空における気流性状の数値計算（その1 実際の市街地をケーススタディとした計算手法の検証），日本建築学会構造系論文集，第474号，1995.8, pp.49-58.
- 18 丸山 敬・丸山勇祐・W. ロディ・平岡久司：人工的に発生させた流入気流を用いたLESによる乱流境界層の計算，第14回風工学シンポジウム論文集，1996.12, pp.217-222.
- 19 丸山 敬：流入境界面における乱流統計量の違いがLESによる乱流境界層の計算に及ぼす影響について，日本風工学会誌，No.74, 1998.1, pp.35-46.
- 20 丸山 敬：複雑粗度上の乱流境界層の数値シミュレーション，日本風工学会誌，No.75, 1998.4, pp. 19-24.
- 21 丸山 敬：市街地上空における気流性状の数値計算；その2建物の密度変化に伴う平均風速および乱れの強さの変化，日本建築学会構造系論文集，1998.11, pp.59-64.
- 22 丸山 敬：平塚市上空の気流性状の数値シミュレーション，第15回風工学シンポジウム論文集，1998.12, pp.137-142.
- 23 丸山勇祐・丸山 敬：直方体周りの流れ場形に及ぼす接近流の気流性状に関する数値計算，第15回風工学シンポジウム論文集，1998.12, pp.167-172.
- 24 T.Maruyama : On the Influence of Turbulence Characteristics at an Inlet Boundary for Large Eddy Simulation of a Turbulent Boundary Layer, Engineering Turbulence Modelling and Experiments 4, Elsevier, 1999.5, pp.217-226.
- 25 Maruyama, T. : Surface and inlet boundary conditions for the simulation of turbulent boundary layer over complex

- rough surfaces, Journal of Wind Engineering and Industrial Aerodynamics, Vol.81, 1999.5-7, pp.311-322.
- 26 丸山勇祐・丸山 敬：人工的に生成した変動風を流入条件とするLESによる立方体周りの乱流場の数値計算,日本建築学会構造系論文集,第520号,1999.6,pp.37-43.
- 27 T.Maruyama,W.Rodi, Y.Maruyama and H.Hiraoka : Large eddy simulation of the turbulent boundary layer behind roughness elements using an artificially generated inflow, J. Wind Eng. Ind. Aerodyn., vol.83 (1999), pp.381-392.
- 28 須田健一・佐々木淳・石橋龍吉・藤井邦雄・日比一喜・丸山 敬・岩谷祥美・田村幸雄：ドップラーソーダーを用いた都心部の自然風観測, 第16回風工学シンポジウム論文集, 2000.11, pp.13-18.
- 29 丸山 敬・林 泰一・前田潤滋・桂 順治・藤井 健：台風9918号による八代海沿岸の建物被害について, 第16回風工学シンポジウム論文集, 2000.11, pp.89-94.
- 30 Tamura, Y., K. Suda, A. Sasaki, K. Miyashita, Y. Iwatani, T. Maruyama, K. Hibi, R. Ishibashi : Simultaneous wind measurements over two sites using Doppler sodars, Journal of Wind Engineering and Industrial Aerodynamics, Volume 89, No.14, 2001.11, pp.1647-1656.
- 31 丸山 敬・田中孝義：乱流境界層内の二次元火炎後方熱流場の気流・温度性状に関する実験的研究（その1）, 日本建築学会計画系論文報告集, No.557, 2002.7, pp.9-16.
- 32 丸山 敬・田中孝義：乱流境界層内の床面に置かれた二次元火炎後方の温度変動性状について, 第17回風工学シンポジウム論文集, 2002.12, pp.185-190.
- 33 丸山 敬・谷口徹郎・岡崎充隆・谷池義人：接地境界層中に置かれた2.4m立方体周りの気流・風圧性状, 日本風工学会誌, No.99, 2004.4, pp.227-240.
- 34 丸山 敬：LESによる粗面上の乱流境界層の数値計算, 第18回風工学シンポジウム論文集, 2004.12, pp.57-62.
- 35 奥田泰雄・林 泰一・横木 研・丸山 敬：2003年台風マエミー（0314）号による強風と宮古島での被害について, 第18回風工学シンポジウム論文集, 2004.12, pp.175-180.
- 36 池内淳子・谷口徹郎・丸山 敬・谷池義人：自然風中における非定常な風向の解析方法について, 第18回風工学シンポジウム論文集, 2004.12, pp.193-198.
- 37 岩谷祥美・田村幸雄・日比一喜・須田健一・中村 修・丸山 敬・石橋龍吉：ドップラーソーダによる海岸と内陸部における平均風速と風速鉛直成分の乱れの強さの鉛直分布に関する研究, 日本建築学会構造系論文集, No.598, 2005.12, pp.27-34.
- 38 丸山 敬・石川裕彦・内田孝紀・河井宏允・大屋裕二：台風0418号通過時の宮島周辺の強風場に関する数値シミュレーション, 日本風工学会誌, No.108, 2006, pp.95-104.
- 39 丸山 敬・富阪和秀：正方形格子の風向角および充実率の変化に伴う空力特性の変化, 第19回風工学シンポジウム論文集, 2006.11-12, pp.271-276.
- 40 富阪和秀, 丸山 敬：ネットの空力特性の測定, 日本風工学会論文集, No.112, 2007.7, pp.103-112.
- 41 Tamura, Y., Iwatani, Y., Hibi, K., Suda, K., Nakamura, O., Maruyama, T., and Ishibashi, R.: Profiles of mean wind speeds and vertical turbulence intensities measured at seashore and two inland sites using Doppler Sodars, Journal of Wind Engineering & Industrial Aerodynamics, 95 (6), 2007.6, pp.411-427.
- 42 Maruyama, T., T. Taniguchi, M. Okazaki, Y. Taniike : Field Experiment Measuring the Approaching Flows and Pressures on a 2.4m Cube, Journal of Wind Engineering & Industrial Aerodynamics, 96 (6), 2008.6, pp.1084-1091.
- 43 丸山 敬・前田潤滋・友清衣利子・中野満寿男・金田幸恵：メソスケール気象モデルにより再現された台風0418号の強風場, 第20回風工学シンポジウム論文集, 2008.12, pp.37-42.
- 44 内田 孝紀・丸山 敬・竹見哲也・大屋裕二・道下和明：複雑地形上の風車ハブ高さ風速に与える流入気流性状と標高データの影響, 第20回風工学シンポジウム論文集, 2008.12, pp.139-144.
- 45 Maruyama, T. : Large eddy simulation of turbulent flow around a wind break, Journal of Wind Engineering and Industrial Aerodynamics Vol.96, 2008.10-11, pp.1998-2006.
- 46 丸山 敬・藤井文夫：風速場とネットの変形に関する連成解析, 日本風工学会論文集, Vol.34, No.2 (No.119), 2009.4, pp.21-30.
- 47 丸山 敬・河井宏允・西村宏昭・加茂正人：外装材耐衝撃性能試験用エアークャノン, 日本風工学会論文集, Vol.34, No.2 (No.119), 2009.4, pp.31-38.
- 48 丸山 敬：有孔フェンス周囲の非定常流れ場の数値シミュレーション, 日本建築学会構造系論文集,第639号, 2009.5, pp.873-880.
- 49 Maruyama, T., E. Tomokiyo, J. Maeda: Simulation of Strong Wind Field by Non-hydrostatic Mesoscale Model and Its Applicability for Wind Hazard Assessment of Buildings and Houses, Hydrological Research Letters 2010.4, pp.40-44.
- 50 内田孝紀・丸山 敬・竹見哲也・奥勇一郎・大屋裕二・李 貫行：気象モデルと流体工学モデルを用いた風車設置地点における設計風速評価手法の提案,風力エネルギー協会誌,第34巻,第2号,pp.118-124,Vol.34, No.2, pp.118-124, 2010.3.
- 51 内田孝紀・丸山 敬・石川裕彦・座古勝・出口 啓：白滝山ウインドファームの風車ブレード損傷事故の原因解明 コンピュータシミュレーションによるアプローチ,風力エネルギー,Vol.34, N0.4, 通算96号, pp.77-84, 2010.

- 52 田畑侑一・今野尚子・菊池 文・持田 灯・丸山 敬・萩島 理・谷本 潤：自動車群の流体力学的効果を再現するためのCFDモデルの開発，第21回風工学シンポジウム論文集，2010.12, pp.67-72.
- 53 丸山 敬・石川裕彦・内田孝紀・出口 啓：メソスケールモデルとLESを用いたウインドファーム周辺の気流解析，第21回風工学シンポジウム論文集，2010.12, pp.209-214.
- 54 T. Uchida; T. Maruyama; Y. Ohya : New evaluation technique for WTG design wind speed using a CFD-model-based unsteady flow simulation with wind direction changes, *Modelling and Simulation in Engineering*, Vol.2011, Article No. 13, 2011.1.
- 55 内田孝紀・丸山 敬・大屋裕二：連続的な風向変化を考慮した非定常数値風況予測による風車設置地点における設計風速評価手法の提案，*風力エネルギー協会誌*, Vol.34, 通巻96, pp.129-134, 2011.
- 56 内田孝紀・丸山 敬・大屋裕二：流体工学CFDモデルを用いた連続的な風向変化の再現性について，*風力エネルギー協会 論文集*, Vol.35, No.3, pp.7-13, 2011.
- 57 Uchida, T., T. Maruyama, H. Ishikawa, M. Zako and A. Deguchi : Investigation of the Causes of Wind Turbine Blade Damage at Shiratakiyama Wind Farm in Japan — A Computer Simulation Based Approach, *Energies* 2011.4, 1-x manuscripts; doi:10.3390/en40x000x ISSN 1996-1073, www.mdpi.com/journal/energies.
- 58 Maruyama T.: Simulation of flying debris using a numerically generated tornado-like vortex. *Journal of Wind Engineering and Industrial Aerodynamics*. 99(4), 2011.4, pp.249-256.
- 59 田畑侑一・持田 灯・今野尚子・菊池 文・丸山 敬・萩島 理・谷本 潤：自動車の形状・密度を変化させた場合のモデル係数の最適値の変化，*日本建築学会環境系論文集*，第667号，2011.9, pp.831-837.
- 60 Nishijima, K., Maruyama, T., Graf, M. (2012). A preliminary impact assessment of typhoon wind risk of residential buildings in Japan under future climate change, *Hydrological Research Letters* 6, 2012.3, pp.23-28.
- 61 丸山 敬・河井宏允・加茂正人・西村宏昭：瓦に対する合わせガラスの耐衝撃特性，第22回風工学シンポジウム論文集，2012.12, pp.109-114. I
- 62 岡崎純也・丸山 敬：瓦と正方形平板の飛散性状のシミュレーション，第22回風工学シンポジウム論文集，2012.12, pp.377-382.
- 63 Takashi Maruyama, Hiromasa Kawai, Hiroaki Nishimura and Mayuko Hanatani : Missile Impact Resistant Test of Glasses according to ISO 16932, *Journal of Disaster Research* Vol.8 No.6, pp.1114-1119, 2013.12.
- 64 丸山敬・河井宏允・西村宏昭・花谷真由子：種々の加撃体を用いた合わせガラスの耐衝撃試験と標準加撃体の提案，*日本風工学会論文集*, Vol. 39No. 1 [No. 138], p. 1-12, 2014.1.
- 65 S. Zhang; K. Nishijima; T. Maruyama : Reliability-based modeling of typhoon induced wind vulnerability for residential buildings in Japan, *Journal of Wind Engineering and Industrial Aerodynamics*, Vol.124, pp.68-81, 2014.1.
- 66 丸山 敬・河井宏允・奥田泰雄・中村 修：数値計算による竜巻中の飛散物の速度推定，第23回風工学シンポジウム論文集，2014.12, pp.487-492.
- 67 Keiichi Akasaka, Takahiro Tanaka, Takashi Maruyama, Nobutaka Kitamura, Atsushi Hashimoto, Yuko Ito, Hiroyoshi Watanabe, Tomoshige Wakayama, Takero Arai, Masachika Hayashi, Hiroshi Moriyama, Kanji Uchida, Shinya Ohkouchi, Ryushi Tazawa, Toshinori Takada, Etsuro Yamaguchi, Toshio Ichiwata, Masaki Hirose, Toru Arai, Yoshikazu Inoue, Hirosuke Kobayashi and Koh Nakata : A mathematical model to predict protein wash out kinetics during whole-lung lavage in autoimmune pulmonary alveolar proteinosis, *Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol* 308: L105-L117, 2015 the American Physiological Society. First published November 14, 2014; doi:10.1152/ajplung.00239.2014@www.ajplung.org.
- 68 David J. Bodine, Takashi Maruyama, Robert D. Palmer, Caleb J. Fulton, Howard B. Bluestein and Dave Lewellen, Sensitivity of Tornado Dynamics to Soil Debris Loading, *Journal of the Atmospheric Sciences*, 73, pp.2783-2801, 2016.7.
- 69 Bodine, D., R. D. Palmer, T. Maruyama, C. J. Fulton, Y. Zhu, and B. L. Cheong, 2016: Simulated frequency dependence of radar observations of tornadoes. *J. Atmos. Oceanic Technol.*, in press. Early online release on 2016.7.11.: <http://journals.ametsoc.org/doi/pdf/10.1175/JTECH-D-15-0120.1>
- 70 丸山 敬・志村正幸・長船寿一，ガラスの耐衝撃試験における加撃体の違いによる衝撃力の変化，第24回風工学シンポジウム論文集，2016.12, pp.265-270.
- 71 Amr Nassr, Tomomi Yagi, Takashi Maruyama, Gen Hayashi, Damage and wave propagation characteristics in thin GFRP panels subjected to impact by steel balls at relatively low-velocities, *International Journal of Impact Engineering* (impact factor 3.098) , Volume 111, 2018, 21-33, 2017.8.
- 72 Boon Leng Cheong, David J. Bodine, Caleb J. Fulton, Sebastián M. Torres, Takashi Maruyama and Robert D. Palmer, SimRadar: A Polarimetric Radar Time-Series Simulator for Tornadoic Debris Studies, *IEEE TRANSACTIONS ON GEOSCIENCE AND REMOTE SENSING*, VOL. 55, NO. 5, MAY 2017, 2858-2870
- 73 松居 健人・丸山 敬・西村 宏昭・野田 博：自立型計測装置を用いた飛散物模型の空力特性の直接計測の試み，第25回風工学シンポジウム論文集，2018, pp.169-174.
- 74 玉城 鷹・丸山 敬・西村 宏昭・根本 浩明：風洞実験による直方体型ネットハウスの空力特性の測定，第25回風工学シンポジウム論文集，2018, pp.307-312.
- 75 丸山 敬・泉 知宏・玉城 鷹：WRFとLESを用いた地上付近の変動風速場の再現計算，第25回風工学シン

- ボジウム論文集, 2018, pp.31-36.
- 76 美並浩成・西嶋一欽・丸山 敬・西村宏昭：隣接建物の影響を考慮した建物群の風荷重評価手法，日本風工学会論文集, 2019, vol. 44. 4, pp. 81-89.
 - 77 内田孝紀・丸山 敬・竹見哲也・出口 啓：非定常乱流モデルLESを用いた再現期間50年の風車ハブ高さにおける極値3秒平均風速 V_{e50} の推定，風力エネルギー利用シンポジウム, 2019, vol. 41, pp. 42-43.
 - 78 劉 美智・丸山 敬・佐々木寛介・井上 実・井口 正人・藤田 英輔：噴石模型の落下試験の動画解析，風工学研究論文集, 2020, vol. 26, pp. 305-313.
 - 79 玉城 磨・西村 宏昭・丸山 敬：ネットハウスの風力と遮風効果に関する野外観測，風工学研究論文集, 2020, vol. 26, pp. 252-258.
 - 80 M. Tamaki and T. Maruyama : Comparison of wind loads on rectangular net house with numerical simulation and wind tunnel tests , Acta Hort. 1312. ISHS 2021. DOI 10.17660/ActaHortic.2021.1312.79 .
 - 81 Liu, M., T. Maruyama, K. Sasaki, M. Inoue, M. Iguchi and E. Fujita : Measurement of Aerodynamic Characteristics Using Cinder Models through Free Fall Experiment, Atmosphere 2021, 12(5), 608; <https://doi.org/10.3390/atmos12050608>.
 - 82 Cross, R., D. Bodine, R. D. Palmer, C. Griffin, B. Cheong, S. Torres, C. Fulton, J. Lujan, T. Maruyama : Exploring Tornadoic Debris Signature Hypotheses Using Radar Simulations and Large-Eddy Simulations, Journal of Atmospheric and Oceanic Technology 40(10), 2023.8, DOI:10.1175/JTECH-D-22-0141.1.
 - 83 Takashi Maruyama and Masato Iguchi : Impact Resistance Test of Cladding by Using Gravel, Journal of Disaster Research, 2023, Vol 18, Issue 8, p918, DOI, <https://doi.org/10.20965/jdr.2023.p0918>.

論 文（査読なし）

- 1 丸山敬：建築物荷重指針・同解説第3版，4.2章，日本建築学会, pp.118-156, 1993年, 平成5年6月. (分担執筆：他89名)
- 2 石崎潑雄・桂順 治・谷池義人・丸山 敬：風洞床面の粗度の変化による気流の性状について，京都大学防災研究所年報，第27号B-1, 1984.4, pp.249-260.
- 3 石崎潑雄・桂順 治・谷池義人・丸山 敬：人工芝を床面粗度として与えたときの風洞内気流性状について，日本建築学会大会学術講演梗概集, 1984.10, pp.1045-1046.
- 4 石崎潑雄・桂順 治・谷池義人・丸山 敬：風洞床面の粗度の変化による気流の性状について（その2），京都大学防災研究所年報，第28号B-1, 1985.4, pp.337-343.
- 5 石崎潑雄・桂順 治・谷池義人・丸山 敬：人工芝を床面粗度として与えたときの風洞内気流性状について（その2），日本建築学会大会学術講演梗概集, 1985.10, pp.689-690.
- 6 丸山 敬・谷池義人・桂順 治：人工芝上に発達した乱流境界層内の乱れの統計的性状について，京都大学防災研究所年報，第29号B-1, 1986.4, pp.139-149.
- 7 丸山 敬・谷池義人：市街地模型上に発達する乱流境界層について（静圧勾配が平均風速の鉛直分布形状に与える影響），日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集B構造I, 1986.8, pp.121-122.
- 8 丸山 敬：市街地におけるキャノピー層内の風速分布に関する風洞実験，京都大学防災研究所年報，第30号B-1, 1987.4, pp.201-212.
- 9 石崎潑雄・丸山 敬：市街地上の気流性状について，日本風工学会昭和62年度年次研究発表会梗概, 1987.5, pp.5-6.
- 10 Maruyama, T. and H. Ishizaki : A wind tunnel test on the boundary layer characteristics above an urban area, Proc. 7th Int. Conf. on Wind Engineering, 6-10 July 1987, Aachen, F.R.G. Vol.1, pp.223-232.
- 11 石崎潑雄・丸山 敬：地面付近の高さ方向風速分布の粗度ブロック密度による変化について，日本建築学会大会（近畿）学術講演梗概集B構造I, 1987.10, pp.1419-1420.
- 12 丸山 敬：粗面上に発達する乱流境界層のk-eモデルによるシミュレーション，第3回生研NSTシンポジウム講演論文集, 1988.2, pp.79-85.
- 13 平岡久司・丸山 敬：植物群落内および都市キャノピー内での乱流モデルの考察，第3回生研NSTシンポジウム講演論文集, 1988.2, pp.87-93.
- 14 丸山 敬・石崎潑雄：ラフネス内の高さ方向平均風速分布に関する数値計算，京都大学防災研究所年報，第31号B-1, 1988.4, pp.275-286.
- 15 平岡久司・中村泰人・丸山 敬：植物群落内および都市キャノピー内での乱流モデル，日本建築学会近畿支部研究報告集, 1988, pp.225-228.
- 16 丸山 敬：プローブの違いによるラフネス内気流性状の測定結果の変化について（X型およびタンデム型熱線風速計の比較），日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集B構造I, 1988.10, pp.115-116.
- 17 平岡久司・丸山 敬：植物群落内および都市キャノピー内での乱流モデルの考察（抵抗物体の体積変化を考慮した解法について），第4回生研NSTシンポジウム講演論文集, 1989.2, pp.89-96.

- 18 丸山 敬：粗面上に発達する乱流境界層の $k-e$ モデルによるシミュレーション（その2：粗度による抵抗を考慮した計算），第4回生研N S Tシンポジウム講演論文集，1989.2, pp.97-103.
- 19 丸山 敬：粗度要素の配置形状による床面抗力の変化に関する風洞実験，京都大学防災研究所年報，第32号B-1，1989.4, pp.423-437.
- 20 丸山 敬：立方体粗度ブロックの配列形状による床面抗力の変化（フロートによる床面抗力の測定），日本建築学会大会（九州）学術講演梗概集B構造I，1989.10, pp.77-78.
- 21 丸山 敬：粗面に加わる抗力のフロートによる直接測定，日本風工学会誌，No.41, 1989.10, pp.13-14.
- 22 丸山 敬：流れ方向の粗度変化に伴う鉛直方向風速分布の変化（粗度形状を考慮した $k-e$ 乱流モデルによる計算），第39回応用力学連合講演会講演予稿集，1989.12, pp.261-262.
- 23 丸山 敬：粗面上に発達する乱流境界層の $k-e$ モデルによるシミュレーション（その3：境界条件による変化），第5回生研N S Tシンポジウム講演論文集，1990.2, pp.11-17.
- 24 丸山 敬：複雑な粗度形状をもつ粗面の粗度評価について（市街地を対象とした検討），京都大学防災研究所年報，第33号B-1，1990.4, pp.309-320.
- 25 丸山 敬：市街地模型に加わる抗力の測定，日本建築学会大会（中国）学術講演梗概集B構造I，1990.10, pp.81-82.
- 26 丸山 敬：複雑な粗度形状をもつ粗面の粗度評価について（その2：数値計算におけるラフネスパラメータの検討），京都大学防災研究所年報，第34号，B-1，1991.4, pp.49-56.
- 27 丸山 敬：粗面上に発達する乱流境界層の数値シミュレーション（その2：市街地のように粗度形状が複雑な場合），日本風工学会誌，No.47, 1991.4, pp.81-82.
- 28 丸山 敬：市街地における地表面粗度形状について，日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集B構造I，1991.9, pp.143-144.
- 29 丸山 敬：市街地上空の乱流境界層のシミュレーション，京都大学防災研究所年報，第35号B-1，1992.4, pp.121-135.
- 30 丸山 敬：市街地上空における気流性状の数値計算，日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集B構造I，1992.8, pp.29-30.
- 31 盛川 仁・丸山 敬：条件付確率場の理論を用いた流入境界面における風速変動の数値シミュレーション，第8回 生研N S Tシンポジウム，1993.3, pp.41-48.
- 32 丸山 敬：市街地における建物の密度変化に伴う風速の鉛直分布形状の変化について，京都大学防災研究所年報，第36号B-1, 1993.4, pp. 49-68 .
- 33 丸山 敬：市街地上空における気流性状の数値シミュレーション（建物構成の違いによる気流性状の変化），日本風工学会誌，No.55, 1993.5, pp.95-96.
- 34 丸山 敬：市街地上空における気流性状の数値計算（その2：建物の密度変化にともなう気流性状の変化），日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集B構造I，1993.9, pp. 1157-1158.
- 35 丸山 敬：乱流境界層内の測定データを用いた風速変動の時空間シミュレーション，京都大学防災研究所年報，第37号B-1, 1994.4, pp. 67- 75.
- 36 丸山 敬・丸山勇祐・W. ロディ：測定データを用いた乱流境界層内の風速変動シミュレーション，日本建築学会大会学術講演梗概集，1996.9, pp.149-150.
- 37 丸山 敬・丸山勇祐・W.Rodi・平岡久司：人工流入気流を用いたLESによる乱流境界層のシミュレーション，第12回生研N S Tシンポジウム，1997.3, pp.45-52.
- 38 丸山 敬・丸山勇祐・W.Rodi・平岡久司：LESによる乱流境界層の数値計算のための流入変動気流の生成，京都大学防災研究所年報，1997.4,第40号B-1，pp.139-151.
- 39 丸山 敬：乱流境界層のLESによる計算において流入境界における乱流性状の違いが及ぼす影響について，第8回計算流体シンポジウム，1997.7, pp.345-346.
- 40 丸山 敬・丸山勇祐：変動風速場を流入条件に用いたLESによる1:1:0.5直方体周りの乱流場の計算，第13回生研N S Tシンポジウム講演論文集，1998.3, pp.5-8.
- 41 丸山勇祐・丸山 敬：LESを用いた乱流境界層中における3次元角柱まわりの数値解析，京都大学防災研究所年報，1998.4, pp.279-286, 第41号B-1 .
- 42 丸山 敬：平塚市上空の風速分布の数値シミュレーション，京都大学防災研究所年報，1998.4, pp.287-292, 第41号B-1 .
- 43 丸山 敬：実在する市街地上空の気流性状の数値シミュレーション，日本建築学会大会学術講演梗概集，1998.9, pp. 307-308.
- 44 丸山勇祐・丸山 敬：人工的に生成した流入変動風を用いたLESによる3次元角柱周りの乱流場の計算，日本建築学会大会学術講演梗概集，1998.9, pp.309-310.
- 45 佐々木淳・藤井邦雄・石橋龍吉・日比一喜・丸山 敬・田村幸雄：ドップラーソーダを用いた地表面付近の風観測（その6），日本風工学会誌，No.79, 1999.4, pp. 15-16.
- 46 奥田泰雄・桂 順治・林 泰一・丸山 敬・藤井健：台風9807号の強風災害；その1消防署で観測された気象要素，日本風工学会誌，No.79, 1999.4, pp.33-34.
- 47 林 泰一・奥田泰雄・丸山 敬：台風9807号の強風災害について；その2一特に住家の被害についてー，

- 日本風工学会誌, No.79, 1999.4, pp.35-36.
- 48 丸山 敬・桂 順治・林 泰一・奥田泰雄：台風9807号の強風災害；その3 航空映像による建物被害調査，日本風工学会誌, No.79, 1999.4, pp.37-38.
- 49 丸山 敬・桂 順治・林 泰一・奥田泰雄：台風9807号による強風災害について；その2 奈良盆地における建物被害，京都大学防災研究所年報, 1999.4, pp.267-273, 第42号B-1.
- 50 奥田泰雄・桂 順治・藤井 健・林 泰一・石川裕彦・丸山 敬：台風9807号による強風災害について；その1 消防署で観測された気象要素，京都大学防災研究所年報, 1999.4, pp.247-265, 第42号B-1.
- 51 Maruyama, T. : NUMERICAL SIMULATION OF WIND FLOWS OVER URBAN AREAS, Proceedings of International seminar on numerical analysis in solid and fluid dynamics in 1999, 1999.11, pp. 127-134.
- 52 佐々木淳・石橋龍吉・宮下康一・日比一喜・丸山 敬・田村幸雄：ドップラーソーダを用いた地表面粗度の異なる地点の風速鉛直分布に関する研究（その14 東京都内陸部での自然風観測結果），日本建築学会大会学術講演梗概集, 1999.9.
- 53 丸山 敬・桂 順治・奥田泰雄：台風9807号による建物の強風災害，日本建築学会大会学術講演梗概集, 1999.9.
- 54 奥田泰雄・桂 順治・丸山 敬：消防署で観測された台風9807号の気象要素，日本建築学会大会学術講演梗概集, 1999.9.
- 55 佐々木淳・石橋龍吉・宮下康一・日比一喜・丸山 敬・田村幸雄：ドップラーソーダを用いた地表面粗度の異なる地点の風速鉛直分布に関する研究（その14 東京都内陸部での自然風観測結果），日本建築学会大会学術講演梗概集, 1999.9, pp. 103-104.
- 56 林 泰一・丸山 敬・藤井 健・奥田昌弘：台風9918号による強風被害について，平成11年度科学研究費補助金（特別研究促進費）研究成果報告書, 2000.6, pp.77-94.
- 57 丸山 敬・林 泰一・前田潤滋・桂 順治・藤井 健：台風9918号による八代海沿岸の建物被害について—航空機からの映像による調査検討—，平成11年度科学研究費補助金（特別研究促進費）研究成果報告書, 2000.6, pp.111-118.
- 58 田中健路・林 泰一・丸山 敬：台風9918号に伴う地区スケールの被害分布について，平成11年度科学研究費補助金（特別研究促進費）研究成果報告書, 2000.6, pp.119-134.
- 59 西村宏昭・丸山 敬・林 泰一：台風9918号による鹿児島県下の被害，平成11年度科学研究費補助金（特別研究促進費）研究成果報告書, 2000.6, pp.135-142.
- 60 山本晴彦・鈴木賢士・早川誠而・丸山 敬・岩谷 潔：山口県小野田市において1999年台風18号の通過時に発生した竜巻被害の概要，平成11年度科学研究費補助金（特別研究促進費）研究成果報告書, 2000.6, pp.269-276.
- 61 丸山 敬・桂 順治・前田潤滋：台風9918号による八代海沿岸の建物被害について—航空機からの映像による調査検討—，日本建築学会大会学術講演梗概集, 2000.9, pp. 111-112.
- 62 佐々木淳・須田健一・石橋龍吉・藤井邦雄・日比一喜・丸山 敬・岩谷祥美・田村幸雄：ドップラーソーダを用いた地表面粗度の異なる地点の風速鉛直分布に関する研究（その15 同一強風場における都心部の風速の高さ方向分布の変化），日本建築学会大会学術講演梗概集, 2000.9, pp. 127-128.
- 63 丸山勇祐・丸山 敬：人工的に生成した流入変動風を用いた高層建物周りの乱流の計算，日本建築学会大会学術講演梗概集, 2000.9, pp. 225-226.
- 64 丸山 敬・田中孝義：乱流境界層内の高温熱流場の気流・温度性状に関する実験的研究，京都大学防災研究所年報, 2001.4, 第44号B-1, pp. 147-157.
- 65 丸山 敬・田中孝義：二次元火炎後流の熱気流性状に関する実験的研究，日本建築学会大会学術講演梗概集, 2001.9, pp. 227-228.
- 66 丸山 敬：接近流の気流性状および地表面粗度形状が市街地上空の乱流境界層に及ぼす影響について，日本建築学会大会学術講演梗概集, 2002.8, pp. 99-100.
- 67 岩谷祥美・田村幸雄・須田健一・丸山 敬・中村修・日比一喜：ドップラーソーダを用いた地表面粗度の異なる地点の風速鉛直分布に関する研究，（その18 海岸および2つの郊外住宅地における風速鉛直分布の若干の見直し），日本建築学会大会学術講演梗概集, 2002.8, pp. 101-102.
- 68 須田健一・宮下康一・中村 修・岩谷祥美・丸山 敬・小田 聡・田村幸雄：ドップラーソーダを用いた地表面粗度の異なる地点の風速の鉛直分布に関する研究（その20 臨海部における風の特性），日本建築学会大会学術講演梗概集, 2002.8, pp.105-106.
- 69 小原久典・丸山 敬・宮下康一・吉田昭仁・田村幸雄：ドップラーソーダを用いた地表面粗度の異なる地点の風速の鉛直分布に関する研究（その21 数値シミュレーションによる再現），日本建築学会大会学術講演梗概集, 2002.8, pp.107-108.
- 70 中川美紀・丸山 敬・谷池義人・岡崎充隆・谷口徹郎：接地境界層内に設置された立方体周りの気流・風圧に関する研究，日本建築学会大会学術講演梗概集B-1, 2002.8, pp. 179-180.
- 71 河井宏允・丸山 敬・石川裕彦・荒木時彦：2001年6月から7月にかけて発生した強風被害について，日本風工学会論文集, No.94, 2003.1, pp.99-106.
- 72 丸山 敬・谷口徹郎・岡崎充隆・谷池義人：自然風中に置かれた立方体周りの気流・風圧性状，京都大学

- 防災研究所年報,2003.4, pp.303-317, 第46号B-1.
- 73 樋本圭佑・田中哮義・丸山敬：都市火災時における火の粉の飛散に関する基礎的研究 ～LESによる正方形平板の飛散性状解析～, 日本建築学会大会(東海)学術講演梗概集A-2, 2003, pp.125-126.
- 74 丸山 敬・谷口徹郎・谷池義人・岡崎充隆：接地境界層内に設置された立方体周りの気流・風圧に関する研究(その2 接近流の乱流特性), 日本建築学会大会学術講演梗概集B-1,2003.9, pp. 127-128.
- 75 樋本圭佑・丸山敬・田中哮義：高温浮力流に駆動される正方形平板の飛散性状シミュレーション, 第19回生研TSFDシンポジウム講演論文集, 2004.3, pp.60-66.
- 76 丸山 敬：接地境界層の数値シミュレーションにおける粗面境界条件について, 日本風工学会誌, No.99, 2004.4, pp.39-40.
- 77 岡田恒・奥田泰雄・喜々津仁密・松井正宏・田村幸雄・土谷学・山本学・林田宏二・近藤宏二・丸山 敬：台風0314号(マエミー)の宮古島での強風被害について, 日本風工学会誌, No.99, 2004.4, pp.67-68.
- 78 丸山 敬：ラフネス上に発達する乱流境界層のLESによる計算, 日本建築学会大会(北海道)学術講演梗概集, 2004.8, pp.45-46.
- 79 丸山 敬：多孔質物体周りの流れのLESによる数値計算, 日本流体力学会年会2004講演論文集, 2004.8, pp.552-553.
- 80 丸山 敬・河井宏允・奥田泰雄・林 泰一：宮古島を来襲した台風0314号について, 京都大学防災研究所年報,2004.4, pp.491-502, 第47号B-1.
- 81 丸山 敬・河井宏允・奥田泰雄・林 泰一：宮古島を襲った台風0314号の後日調査, 日本風工学会論文誌, Vol.29, No.4(No.101), 2004.10, pp.63-69.
- 82 丸山 敬・河井宏允・益田健吾・田村幸雄・松井正宏：台風0418号による厳島神社の被害について, 日本風工学会論文誌, Vol.30, No.1(No.102), 2005.1, pp.49-56.
- 83 丸山 敬：物体を含む空間平均操作によるサブグリッドスケール乱流モデルを用いたLES, 第20回生研TSFDシンポジウム講演論文集, 2005.3, pp.61-68.
- 84 丸山 敬・石川裕彦・内田孝紀・河井宏允・大屋裕二：台風0418号通過時の宮島周辺気流の数値シミュレーション, 日本風工学会誌, No.103, 2005.4, pp.101-102.
- 85 丸山 敬・河井宏允・益田健吾・田村幸雄・松井正宏：台風0418号による厳島神社周辺の強風被害について, 京都大学防災研究所年報,2005.4, pp.587-594, 第48号B.
- 86 丸山 敬・河井宏允・樋本圭佑：6分力天秤を用いた正方形平板の空気力特性の測, 日本建築学会大会学術講演梗概集B-1,2005.9, pp. 177-178.
- 87 丸山 敬：防風ネットの空力特性の測定, 日本流体力学会年会2005講演論文集,2005.9, pp. 165.
- 88 丸山 敬：風洞実験による有孔体の空力特性の測定, 第55回理論応用力学講演会, 2006.1, pp.605-606.
- 89 丸山 敬：有孔フェンス周囲の非定常流れ場のLES, 第21回生研TSFDシンポジウム講演論文集, 2006.3, pp.21-24.
- 90 丸山 敬・石川裕彦・内田孝紀・河井宏允・大屋裕二：台風0418号通過時の厳島神社周辺における地形性の強風を再現する試み, 京都大学防災研究所年報,2006.4, pp.487-496, 第49号B.
- 91 H. Ishikawa, Yoshino, T. Maruyama : Proc. of the 6th Japan-Taiwan Joint Seminar on Natural Hazard Mitigation, 9-11 October 2006, Kyoto, Japan (CD-ROM), 2006.
- 92 丸山 敬・河井宏允：平成18年7月2日に岐阜県浪浪市と恵那市で起こった強風災害について, 日本風工学会論文報告集, Vol.32, No.1(No.110), 2007.1, pp.39-44.
- 93 丸山 敬：竜巻状の渦の数値シミュレーション, 日本風工学会誌, No.111, 2007.4, pp.99-100.
- 94 丸山 敬・加茂正人：2006年の強風による建物被害の特徴 ―防災・減災の観点から―, 平成19年度日本風工学会年次研究発表会, 日本風工学会誌, No.111, 2007.4, pp.157-158.
- 95 Takashi MARUYAMA: Recent report of strong wind damage to buildings and houses in Japan, Proceedings of JaWEiK3; The 3rd Korea-Japan Joint Meeting on Wind Engineering, 2007.5.11-12.
- 96 丸山 敬・富阪和秀・加茂正人：間隙率の変化に伴う格子の空力特性の変化, 日本流体力学会年会2006講演論文集AM06-02-008, 2007.8, pp.362.
- 97 丸山 敬：LESによる竜巻状の渦のシミュレーション, 日本建築学会大会学術講演梗概集B-1,2007.9, pp. 1181-182.
- 98 丸山 敬・河井宏允・石川裕彦・林 泰一・加茂正人：台風0613号による強風被害について, 京都大学防災研究所年報,2007, pp.483-492, 第50号B.
- 99 丸山 敬：ラージ・エディ・シミュレーションによる竜巻状の渦を作る試み, 京都大学防災研究所年報,2008, pp.481-488, 第51号B.
- 100 友清衣利子・前田潤滋・網代義文・丸山 敬：2008年3月から5月にかけて鹿児島県で発生した竜巻等による被害について, いちき串木野市, 垂水市, 枕崎市および中種子町での被害, 都市・建築学研究 九州大学大学院人間環境学研究院紀要 第14号, pp.79-86, 2008.7.
- 101 田畑 侑一・持田 灯・丸山 敬・萩島 理・谷本 潤・菊池 文：自動車走行に伴う街路空間の流れ場・拡散場の変化を記述するCFDサブモデルの開発(その3) 簡略化された自動車モデルを用いた風洞実験とCFD解析の比較, 日本建築学会大会学術講演梗概集D-1,2008.9, pp.923-924.

- 102 Akashi Mochida, Aya Hagishima, Jun Tanimoto, Takashi Maruyama, Yuichi Tabata, Aya Kikuchi, Yoshiki Kikuchi : Modeling of Aerodynamic Effects of Moving Automobiles for CFD Prediction of Turbulent Flow in Urban Area, 2008.10, Abstracts of 5th Japanese-German Meeting on Urban Climatology, pp.31
- 103 丸山 敬・河井宏允・西村宏昭：外装材の耐衝撃性能試験用エアークャノンの試作,日本建築学会大会学術講演梗概集B-1,2008年9月19日,pp. 283-284, 広島.
- 104 丸山 敬・前田潤滋・友清衣利子・中野満寿男・金田幸恵：メソスケールモデルにより計算された台風に伴う強風場の再現性,平成20年度京都大学防災研究所一般共同利用研究集会”台風災害を防ぐ”,2008.12,pp. 60-65.
- 105 友清衣利子・丸山敬・前田潤滋：住家の耐風性能を考慮した強風被害率推定の試み,市町村の構造種別分布特性の利用,都市・建築学研究 九州大学大学院人間環境学研究院紀要 第15号, pp.55-62, 2009.1.
- 106 友清衣利子・前田潤滋・丸山敬：構造種別に基づく住家の耐風性能を考慮した台風時住家被害率の推定,日本建築学会研究報告九州支部 第48号・1 構造系, pp.205-208, 2009.3.
- 107 丸山 敬：エアークャノンによるガラスの耐衝撃性能試験,第55回風に関するシンポジウム,2009年3月19日,口頭発表,東京.
- 108 丸山 敬・河井宏允・西村宏昭・加茂正人：試作された耐衝撃性能試験用エアークャノンの性能,京都大学防災研究所年報,2009, pp.481-489, 第52号B.Performance of an Experimental Air-cannon for Impact Resistant Test of Cladding
- 109 西村宏昭・丸山 敬・河井宏允：2008年7月に発生した敦賀市の突風による大型テントの被害,京都大学防災研究所年報,2009, pp.491-499, 第52号B. Failure of a large test structure by a gust wind at Tsuruga City
- 110 丸山 敬：有風下におけるネットの動的変形の数値解析,第24回生研TSFDシンポジウム講演論文集, 2009.3, pp.44-51.
- 111 西村宏昭・丸山 敬・鈴木 修：突風によるイベント用大型テントの被害について,日本風工学会誌, Vol.34, No.2 (No.119), 2009.4, pp.141-142.
- 112 友清衣利子・前田潤滋・丸山敬：構造特性に基づく住家耐風性能を考慮した被害率の算定,日本風工学会誌, Vol.34, No.2 (No.119), 2009.4, pp.145-146, 2009.5.
- 113 丸山敬：強風による建物被害予測のための仮想風速計の開発,日本風工学会誌, Vol.34, No.2 (No.119), 2009.4, pp.147-148, 2009.4.
- 114 丸山 敬・河井宏允・西村宏昭・加茂正人・前田 豊：ISO 16932に準じた合わせガラスの耐衝撃試験；日本風工学会誌, Vol.34, No.2 (No.119), 2009.4, pp.149-150. Impact Resistant Test of Laminated Glasses according to ISO16932 Takashi MARUYAMA, Hiromasa KAWAI, Hiroaki NISHIMURA, Masato KAMO, Yutaka MAEDA
- 115 丸山 敬・河井宏允・西村宏昭・加茂正人：外装材耐衝撃性能試験用エアークャノン、日本風工学会誌, Vol.34, No.2 (No.119), 2009.4, pp.31-38. An Air-cannon for Impact Test of Cladding
- 116 丸山 敬・河井宏允・西村宏昭・加茂正人：試作された耐衝撃性能試験用エアークャノンの性能,京都大学防災研究所年報,2009.4, 第52号B, pp.481-489.
- 117 Takashi Maruyama, Junji Maeda, Eriko Tomokiyo, Masuo Nakano and Sachie Kanada : NUMERICALLY SIMULATED STRONG WIND FIELDS OF TYPHOON SONGDA BY MESOSCALE CLIMATE MODEL, Proceedings of The 7th International conference on Urban Climate, A9-6, Yokohama, Japan, June 29 – July 3, 2009
- 118 Naoko Konno, Akashi Mochida, Takashi Maruyama, Aya Hagishima, Jun Tanimoto, Aya Kikuchi, Yoshiki Kikuchi: CFD Prediction of Turbulent Flow under the Influence of Moving Automobiles in Street Canyons, Turbulence, Heat and Mass Transfer 6 K. Hanjalić, Y. Nagano and S. Jakirlić (Editors) 2009 Begell House, Inc. “Sapienza” University of Rome, Italy, September 14-18 2009.
- 119 加茂正人・丸山 敬・河井宏允・前田 豊・西村宏昭：合わせガラスの耐飛散物衝撃試験 その1 衝撃試験,日本建築学会大会学術講演梗概集B-1,2009年8月27日,pp. 127-128, 仙台.
- 120 前田 豊・加茂正人・丸山 敬・河井宏允・西村宏昭：合わせガラスの耐飛散物衝撃試験 その2 圧力試験,日本建築学会大会学術講演梗概集B-1,2009年8月27日,pp. 129-130, 仙台.
- 121 田畑侑一・今野尚子・持田 灯・菊池 文・萩島 理・丸山 敬・谷本 潤・菊池圭起：日本流体力学会年会 2009 走行する自動車群の流体力学的効果を再現するためのCFD サブモデルの開発 (その1) 自動車模型を対象とした風洞実験との比較とモデル係数の最適化 Development of CFD sub-model for reproducing aerodynamic effects of moving automobiles. (Part1) Comparison between wind tunnel experiments and CFD predictions using vehicle-shaped model and optimization of model coefficients
- 122 丸山 敬：有風下におけるネットの動的変形の数値解析,日本流体力学会年会講演論文集 2009, 2009.9, p.346.
- 123 丸山 敬：数値トルネードシミュレーターの特性,第23回数値流体力学シンポジウム論文集C D, 2009.12, G1-4.
- 124 丸山敬：気象モデルの計算結果を用いた建物強風被害の推定に関する考察,台風災害の歴史と教訓,京都大学防災研究所研究集会21K-09報告書, 2010.2, 76-77.
- 125 丸山敬：数値トルネードシミュレーターによりつくられた竜巻状の渦の性質,第25回生研TSFDシンポジ

- ウム講演論文集, 2010.3, pp.18-23.
- 126 丸山 敬: 観測値を用いたメソスケール気象モデルによる強風場の再現性の検証、風に関するシンポジウム, 2010.3, 口頭発表
 - 127 内田孝紀・丸山 敬: 数値流体計算モデル(LES)を用いた複雑地形上の局所風速場の予測、風に関するシンポジウム, 2010.3, 口頭発表
 - 128 Takashi Maruyama: Simulation of Flying Debris using Numerically Generated Tornado-like Vortex, The Fifth International Symposium on Computational Wind Engineering (CWE2010) Chapel Hill, North Carolina, USA May 23-27, 2010
 - 129 丸山 敬: 数値的に生成された竜巻状の渦の性質, 京都大学防災研究所年報, 2010.6, pp.383-390, 第53号B.
 - 130 丸山 敬・石川裕彦・内田孝紀・出口 啓: メソスケールモデルとLESによる複雑地形上の気流解析, 日本流体力学会年会2010.9.
 - 131 加茂正人・丸山 敬・河井宏允・前田 豊・西村宏昭: ガラスの飛散物耐衝撃試験 その1 フロートガラス他, 日本建築学会大会学術講演梗概集B-1, 2010年9月10日, pp. 123-124, 富山.
 - 132 丸山 敬・加茂正人・河井宏允・前田 豊・西村宏昭: ガラスの飛散物耐衝撃試験 その2 合わせガラス他, 日本建築学会大会学術講演梗概集B-1, 2010年9月10日, pp. 125-126, 富山.
 - 133 前田 豊・加茂正人・丸山 敬・河井宏允・西村宏昭: ガラスの飛散物耐衝撃試験 その3 フィルム貼りガラス, 日本建築学会大会学術講演梗概集B-1, 2010年9月10日, pp. 127-128, 富山.
 - 134 丸山 敬: 飛来物の衝撃によるガラスの破壊性状と評価基準, ガラスシンポジウム2010講演集, 板硝子協会, 2010年11月19日, pp. 13-28.
 - 135 丸山 敬: 台風時の飛散物を模擬した外装材の耐衝撃試験法について, 台風等の強風の予測と災害発生機構の解明および低減策に関する研究集会, 2011年1月12日, 口頭発表.
 - 136 Kazuyoshi Nishijima, Takashi Maruyama, Mathias Graf: Preliminary study on impact assessment of climate change on building risks induced by typhoons in Japan, Proceedings of 5th International Symposium on Wind Effects on Buildings and Urban Environment Wind Hazard Resilient Cities: New Challenges March 7-8, 2011.3.
 - 137 Takashi Maruyama: Flying debris in the numerically generated tornado like vortex, Proceedings of 5th International Symposium on Wind Effects on Buildings and Urban Environment Wind Hazard Resilient Cities: New Challenges March 7-8, 2011.3.
 - 138 丸山敬: 竜巻状の渦の中に放出された単純な形状をもった物体の運動, 第26回生研TSFDシンポジウム講演論文集, 2011.3, pp.43-49.
 - 139 加茂正人・丸山 敬・河井宏允・西村宏昭: 加撃体として瓦を用いた衝撃試験装置の開発, 日本風工学会誌, Vol.36, No.2 (No.117), 2011年5月24日, pp.117-118, 大阪.
 - 140 丸山敬・河井宏允・西村宏昭・加茂正人・前田豊: ISO試験法に基づく板ガラスの耐衝撃破壊特性, 京都大学防災研究所年報, 2011.6, pp.347-360, 第54号B. Impact resistant and destruction characteristics of glazing based on ISO test method
 - 141 Takashi Maruyama, Takanori Uchida, Hirohiko Ishikawa and Akira Deguchi : Numerical study on unsteady flow fields around a wind farm simulated by mesoscale model and large eddy simulation, Proceedings of ICWE13 (USB), 2011.7.
 - 142 Konno N., Ono A., Mochida A., Maruyama T., Hagishima A., Tanimoto J. and Tabata Y. : Canopy flow modelling for reproducing aerodynamic effects of roughness arrays with various densities and configurations, Proceedings of ICWE13 (USB), 2011.7
 - 143 加茂正人・丸山 敬・河井宏允・西村宏昭: 瓦を用いたガラスの耐衝撃試験 その1 試験装置, 建築学会年次大会梗概集B-1, 構造I, 2011.8, pp.19-20.
 - 144 丸山 敬・加茂正人・河井宏允・西村宏昭: 瓦を用いたガラスの耐衝撃試験 その2 試験結果と標準加撃体の提案, 建築学会年次大会梗概集, 構造I, 2011.8, pp.21-22.
 - 145 小野梓・今野尚子・持田 灯・丸山 敬・萩島 理・谷本 潤・田畑佑一・山口真人: 自動車群・歩行者群等のような様々な形状・密度の一樣物体群が風環境に与える影響の予測手法の開発 (その1) 高アスペクト比形状の粗度群を対象とした建物Canopy モデル係数値の適用性の検討、建築学会年次大会梗概集, 環境工学I, 2011.8, pp.701-702.
 - 146 今野尚子・小野 梓・持田 灯・丸山 敬・萩島 理・谷本 潤・田畑佑一・山口真人: 自動車群・歩行者群等のような様々な形状・密度の一樣物体群が風環境に与える影響の予測手法の開発 (その2) パラメトリックスタディによる物体形状に即したCanopyモデル係数設定法の提案、建築学会年次大会梗概集, 環境工学I, 2011.8, pp.703-704.
 - 147 Azusa Ono, Naoko Konno, Akashi Mochida, Takashi Maruyama, Aya Hagishima, Jun Tanimoto : Numerical modelling of flow over roughness arrays with various densities and configurations, ICUC8 – 8th International Conference on Urban Climates, 6th-10th August, 2012, UCD, Dublin Ireland.
 - 148 丸山敬: 2012年5月6日につくばで発生した竜巻中の飛散物の速度推定, 京都大学防災研究所年報, 2013.6, pp.349-359, 第56号B.

- 149 S. Zhang, K. Nishijima and T. Maruyama : Climate model-based probabilistic assessment of wind risk for residential buildings under projected future climate, ICOSAR, 2013 130407Submitted→Civil Engineering and Environmental Systems, volume 31, issue 2, year 2014, pp. 98 - 110
- 150 丸山 敬・河井宏允・奥田泰雄・中村 修: 竜巻中の飛散物の特性に関する数値計算, 京都大学防災研究所年報, 2014.6, pp.248-259, 第57号B.
- 151 B. L. Cheong, D. Bodine, T. Maruyama, C. Fulton, Sebastian Torres and R. D. Palmer : An RCS Database Driven Radar Time-Series Simulator, the 8th European Conference on Radar in Meteorology and Hydrology (ERAD2014), and it has been officially accepted. The conference is September 1 – 5, 2014 in Garmisch-Partenkirchen, Germany.
- 152 Takashi MARUYAMA and Sota NAKAJO : Teaching Materials for Typhoon Disaster Management in Uki-city, The International Emergency Management Society, TIEMS 2014, Annual Conference in Niigata, 2014.10.20 -23, A-5 Oral session “Education/Participatory approach”
- 153 Bodine, D. J., R. D. Palmer, T. Maruyama, C. J. Fulton, and B. L. Cheong, 2014: Dual-frequency simulations of radar observations of tornadoes, 27th Conf. on Severe Local Storms, Amer. Meteor. Soc.
- 154 Takashi Maruyama : Development of Impact Resistant Test of Window Glasses in Japan, The 10th China-Japan-Korea International Workshop on Wind Engineering (CJK2015), May 30-31, 2015 Hotel Nongshim, Busan, Korea, Oral presentation.
- 155 B. Cheong, D. Bodine, Y. Zhu, C. Fulton, S. Torres, T. Maruyama and R. Palmer : Understanding tornadic debris echoes using a radar time-series emulator, June 2015.6, pp.912-917, DOI: 10.1109/RADAR.2015.7131125.
- 156 丸山 敬・前田潤滋・奥田泰雄・小林文明・井正宏・林泰一・野田稔・西嶋一欽・友清衣利子・竹内崇: 日本版竜巻スケールのおよびその評価手法に関する研究－竜巻等の突風風速推定指標の作成の試み, 日本風工学会誌, Vol.40, No.2 (No.143), 2015年4月, pp.131-132,
- 157 前田潤滋・丸山 敬・奥田泰雄・小林文明・松井正宏・林 泰一・野田 稔・西嶋一欽・友清衣利子・竹内 崇: 建物等構造要素毎の被害評価による竜巻等の突風風速推定指標の策定, 京都大学防災研究所年報, 2015.9, pp.211-220, 第58号B.
- 158 丸山 敬・西嶋一欽: 合わせガラスの耐衝撃性能試験における信頼性評価方法の考察, JCOSAR 2015 論文集CD, 2015.11, OS15-4B.
- 159 丸山 敬・美並 浩成・野田 博・西嶋一欽・ガヴァンスキ 江梨・松本和朗・松永隆, GISシステムを用いた建物の強風被害に対する耐風性能要素の抽出に関する考察, 京都大学防災研究所年次発表会, 2016.2
- 160 美並 浩成・丸山 敬・西嶋 一欽・ガヴァンスキ江梨・野田 博・友清依利子・石川裕彦, 強風による建物被害リスク評価のためのGISプラットフォーム京都大学防災研究所年次発表会, 2016.2
- 161 ファム・バン・フック・菊池治利・丸山 敬・松井正宏・田村幸雄: 境界層風洞を用いた竜巻状気流発生機構の数値的検討, 建築学会年次大会梗概集, 構造I, 2016.8, pp.139-140.
- 162 丸山 敬・美並浩成・野田 博・西嶋一欽・ガヴァンスキ江梨: 強風による建物被害リスクを評価するためのプラットフォームの構築その1 プラットホームの概要と建物耐風性能データベースの作成, 日本建築学会年次大会梗概集, 20063, 2016.8, pp.125-126.
- 163 美並浩成・西村宏昭・西嶋一欽・ガヴァンスキ江梨・丸山 敬: 強風による建物被害リスクを評価するためのプラットフォームの構築その2 建物被害リスク評価の高精度化を目指した孤立建物群の風圧特性の把握, 日本建築学会年次大会梗概集, 20064, 2016.8, pp.127-128.
- 164 西嶋一欽・ガヴァンスキ江梨: 住宅の強風被害に対する気候変動影響評価 その1 強風ハザード評価, 日本建築学会年次大会梗概集, 20066, 2016.8, pp.131-132.
- 165 西村宏昭・ガヴァンスキ江梨・西嶋一欽・丸山 敬: 住宅の強風被害に対する気候変動影響評価 その2 リスク評価, 日本建築学会年次大会梗概集, 20067, 2016.8, pp.133-134.
- 166 丸山 敬・美並 浩成・野田 博・西嶋一欽・ガヴァンスキ 江梨・松本和朗・松永隆, GISシステムを用いた建物の強風被害に対する耐風性能要素の抽出に関する考察, 京都大学防災研究所年報, 2016.9, pp. 217-221, 第59号B.
- 167 丸山敬・松居健人・西村宏昭・野田博・西嶋一欽: 飛散物の動的空力特性の直接計測システムの試作、京都大学防災研究所年次発表会, 一般公演B16、2017.2
- 168 美並浩成・西嶋一欽・丸山敬・西村宏昭: 建築群の風圧特性を考慮した市街地の強風被害リスク評価手法の構築、京都大学防災研究所年次発表会, 一般公演B17、2017.2
- 169 C, B., D. Bodine, C. J. Fulton, S. M. Torres, T. Maruyama, R. D. Palmer : A Polarimetric Radar Time-Series Simulator for Tornadic Debris Studies, 2017.2 IEEE Transactions on Geoscience and Remote Sensing PP(99):1-13, DOI:10.1109/TGRS.2017.2655363.
- 170 松居健人・丸山 敬・西村宏昭・野田 博・西嶋一欽: 飛散物の動的空力特性の自立型直接計測システムの試作、日本風工学会誌, Vol.42, No.2 (No.151), 2017年4月, pp.144-145
- 171 Amr A. Nassr, T. Yagi, T. Maruyama & G. Hayashi, TRANSIENT DYNAMIC ANALYSIS OF LAMINATED GLASS PANELS UNDER IMPACT LOADING, 2ND INTERNATIONAL CONFERENCE ON STRUCTURAL SAFETY UNDER FIRE & BLAST LOADING CONFAB 2017, 2017.9, pp.189-198.
- 172 T. Maruyama, Variation of Flying Debris' Trajectory with Different Tornado-like Flow Fields, 9th Asia-Pacific

- Conference on Wind Engineering, Auckland, New Zealand, 3-7 December 2017.
- 173 松居健人・丸山敬・西村宏昭・野田博・西嶋一欽：ドーム建物内における飛散物の動的空力特性の直接計測の試み、京都大学防災研究所年報、第61号B、2018.2, pp.394-402.
 - 174 友清衣利子・丸山敬：熊本地震被災者支援システムの情報を用いた被災家屋分析の試み、日本建築学会年次大会梗概集F-1, 2018, pp.243-244.
 - 175 松居健人・丸山敬・西村宏昭・野田博：ドーム建物内における自立型計測装置を用いた飛散物の空力特性の直接計測の試み、日本建築学会年次大会梗概集B-1, 2018, pp.151-152.
 - 176 Bodine, D. J., A. E. Reinhart, M. A. Satrio, T. Maruyama, and F. T. Lombardo, Investigation of the impact of terrain and buildings on tornado dynamics using high-resolution simulations, 29th Conf. on Severe Local Storms, Stowe, Vermont, October 21 – 26, 2018.
 - 177 Satrio, M. A., D. J. Bodine, A. E. Reinhart, and T. Maruyama, The effects of varying surface roughness, translation velocity and swirl ratio on an idealized tornado, 29th Conf. on Severe Local Storms, Stowe, VT, October 22 – 26, 2018.
 - 178 藤近亮・友清衣利子・山成實：熊本県宇城市での被災者生活再建支援システム情報を利用した住宅被害分析、日本建築学会九州支部研報告, pp.285-288, 2019.3.
 - 179 友清衣利子・鈴木佐代・丸山敬：地震津波避難訓練に伴う防災教育指導案の提案とその評価、日本建築学会九州支部研究報告, pp.473-476, 2019.3.
 - 180 松井健人・丸山 敬・西村宏明・野田博、飛散物の風力係数に関する直接計測と風洞実験の比較、日本風工学会2019年度年次研究発表会梗概,2019.4,pp.117-118.
 - 181 丸山 敬・百田大輔・浅古淳一・寺内雄偉：砂利の飛散開始に関する風洞実験、日本風工学会2019年度年次研究発表会梗概集,2019.4,pp.119-120.
 - 182 丸山 敬・小林文明：2018年台風21号による強風・高潮高波災害、日本風工学会誌,2019.7,pp. 267-268.
 - 183 丸山 敬・災害調査報告 一平成30年台風第21号による強風・高潮災害について一、京都大学防災研究所年報, 2019.9, pp. 20-34, 第62号A.
 - 184 丸山 敬・劉美 智・佐々木寛介・井上 実・井口正人・藤田英輔・西村宏昭：噴石模型を用いた噴石の落下性状の観測、京都大学防災研究所年報, 2020.12, pp. 182-189, 第63号B.
 - 185 丸山 敬・竹見哲也・山田広幸・山口弘誠：前線通過時のドップラーライダーによる強風観測、京都大学防災研究所年報, 2021.12, pp. 131-136, 第64号B.

著 書

- 186 丸山敬：建築物荷重指針・同解説第3版, 4.2章, 日本建築学会,pp.118-156, 1993年,平成5年6月.(分担執筆：他89名)
- 187 丸山敬：流体計算と風荷重評価, 2.5.1章, 日本建築学会耐風設計資料小委員会,pp69-73, 1994年11月, 平成6年11月.(分担執筆：耐風設計資料小委員会編, 他29名)
- 188 丸山敬：乱流の数値流体力学モデルと計算法, 12.2章, 東京大学出版会, pp550-554, 1998年1月, 平成10年1月.(分担執筆：大宮司久明・三宅裕・吉澤徹編, 他55名)
- 189 丸山敬：動的外乱に対する設計・現状と展望, 4.2.2章c), 日本建築学会,pp.456-460, 1999年, 平成11年5月.(分担執筆：他99名)
- 190 Hitoshi Morikawa and Takashi Maruyama : Theory of conditional random field and its application to wind engineering, Kyoto University, March, 1999, 平成11年4月.(共著)
- 191 丸山敬：防災学ハンドブック, 6.2章, 朝倉書店,pp.443-465, 2001年, 平成13年4月.(分担執筆：京都大学防災研究所編集, 他69名)
- 192 盛川仁・丸山敬：条件付き確率場の理論と応用, 4, 5章, 付録, 京都大学学術出版会,pp.109-191, 2001年6月, 平成13年6月.
- 193 丸山敬：防災辞典, 築地書館,2002年7月29日初版.(分担執筆：他約400名)
- 194 丸山敬：風水害論, 京都大学防災研究所編, 防災学講座1, 株式会社山海堂,2003年9月1日初版.(分担執筆：他14名), pp.39-42
- 195 丸山敬：ながれの辞典, 丸善, 2004(平成16)年3月10日初版.(分担執筆：他107名), pp.114-118
- 196 丸山敬：2004年の強風被害に関する調査報告書:台風0418号による厳島神社(広島県)の被害,2005年5月, pp.119-126(共著：丸山敬・河井宏允・益田健吾・田村幸雄・松井正宏)
- 197 丸山敬：建築物の耐風設計のための流体計算ガイドブック, 日本建築学会, 2005年10月15日, 第1版第1刷(分担執筆：他11名), pp.70-81,47-56,183-187
- 198 丸山敬：2004年の強風被害とその教訓, 日本建築学会、2006.3,83-87,100-102. (分担執筆：他18名)
- 199 丸山敬：風工学ハンドブック, 6.2章, 朝倉書店,pp.249-251, 2007年, 平成19年4月.(分担執筆：日本風工学会編集, 他97名)

- 200 丸山敬：設計に役立つ風工学の知識，社団法人 日本鋼構造協会，2007年6月、5-8（分担執筆：他20名）
- 201 丸山敬：建築物の耐風設計資料（建築物外装材の耐風設計と耐風性能評価），建築物外装材の耐風設計と耐風性能評価に関するシンポジウム資料，日本建築学会，2008.11，2.2.1節、5.5節。
- 202 丸山敬：台風による強風被害：災害のことわざシリーズ1（地震、台風、火事、おやじ），京都大学防災研究所公開講座（第20回），2009.10，pp.11-20.
- 203 丸山敬：強風災害の変遷と教訓第2版，日本風工学会，2011年12月，pp.184-186,付録13-18.
- 204 丸山敬：見えない現象「風」に挑む耐風設計：飛来物による外装被害と対策，建築技術2012年12月号，pp.100-101.
- 205 丸山敬：これからの設計荷重を考えるー見えない荷重を考えるー，竜巻のシミュレーション、STRUCTURE、No.126,2013,4，pp.34-37.
- 206 丸山敬：ISO 16932-2007「建築物のガラス破壊的暴風に耐える安全ガラス試験と分類」に準じた衝撃試験の結果，安全・安心ガラス設計施工指針増補版 付録6，日本建築防災協会，2014.9，pp.255-261.
- 207 丸山敬（編集代表）：風と構造物を測る、平成28年度 鋼構造と風研究小委員会成果出版物（テクニカルレポート），2018年4月
- 208 丸山敬：住宅を強風被害から守る、ALIA NEWS、リビングアメニティ協会、2022年夏号、2022.8, Vol.176, pp.9-13.

総 説

- 1 丸山敬：日本建築学会技術報告集第1号，建築物設計用の基本風速分布図，日本建築学会，pp.120-126，1995（分担執筆）
- 2 丸山敬：流動・流動・伝熱・燃焼数値解析の基礎から最新のシミュレーション技術まで，伝熱計算実用例（風環境解析），日本機械学会関西支部第230回講習会教材，1998.7，pp.25-30（分担執筆）。
- 3 丸山敬：都市における強風災害，京都大学防災研究所公開講座（第12回）都市の発展と防災，京都大学防災研究所，2001.11，pp.5-14.
- 4 丸山敬：日本における強風災害，こうしょう（高翔；自動車技術会関東支部報；特集風），2002,4，pp.8-11（分担執筆）。
- 5 丸山敬：風に耐えるー建て込んだ市街地内の建物の風荷重をどう考えるか，建築技術8月号，2002.8，pp.123.
- 6 丸山敬：乱流境界層の数値シミュレーションにおける地表面粗度の取り扱い，ワークショップCFDによる乱流境界層のシミュレーション，The 21st Century COE Program，2004.10，pp.123-142.
- 7 丸山敬：消防庁防災・危機管理教育用eラーニング防災・危機管理eカレッジ（インターネット）：深く学ぶ（風害対策）2005.4
- 8 河井宏允・益田健吾・田村幸雄・松井正宏・丸山敬：台風0418号による厳島神社（広島県）の被害，2004年の強風災害に関する調査報告書，日本風工学会誌風災害研究会編，2005,5，pp.119-126（分担執筆）
- 9 丸山敬：台風通過時における厳島神社周辺の地形性の強風を再現する試み，台風被害の軽減に関する総合討論会，京都大学防災研究所研究集会17K-01，2006.3，pp.90-95.
- 10 丸山敬：市街地における風況場の数値計算による可視化，可視化情報学会誌2006年7月号，2006.7，pp.20-25.
- 11 丸山敬：有孔フェンス周囲の非定常流れ場の数値計算，第1回仮設工学研究フォーラム，2006.10，pp.103-106.
- 12 河井宏允・丸山敬・西村宏昭：竜巻等の突風による外装材の耐衝撃評価と試験方法，日本風工学会誌，Vol.33，No.2 (No.115)，2008.4，pp.107-110.
- 13 丸山敬：メソスケールモデルにより計算された台風に伴う強風場の再現性，台風災害を防ぐー気象学・風工学・土木学・災害情報学の間に橋を架けるー，京都大学防災研究所研究集会20K-06，2009.3，pp.60-65.
- 14 丸山敬：建築物の強風災害について，災害フォーラム「地震と台風による地域・建物被害調査の地域防災への活用」予稿集，日本建築学会九州支部他，2009年9月，pp.19-26.
- 15 丸山敬：飛散物に対する外装材の耐衝撃性能の評価方法について，On the Evaluation Method of Impact Resistant Performance of Cladding to Windborne Debris日本風工学会誌，Vol.35，No.1 (No.122)，2010.1，pp.33-40.
- 16 丸山敬：竜巻等による突風の強さと被害の実態，西部地区自然災害資料センターニュース，No.42，2010.3，pp.3-8.
- 17 丸山敬：強風の正体と被害の実態，災害に強いまちづくり講座I平成22年度講演録，京都市防災協会，2010.9，pp.3-8.
- 18 丸山敬：飛来物によるガラスの耐衝撃性能試験と評価方法について，ガラスシンポジウム～2010～，2010.11，pp.13-28.
- 19 丸山敬：風を知り風と付き合うー耐風設計入門ー，財団法人日本鋼構造協会テクニカルレポートNo.94，2011.7，pp.10,13,19,27,44,73.

- 20 丸山敬：建築物の強風災害について，市民フォーラム【地震・津波と台風・竜巻】，日本建築学会九州支部他，2011年9月，pp.11-20.
- 21 丸山敬：飛散物とその防御に関する研究動向・突風を解析するための気象モデル，強風災害の変遷と教訓第2版，一般財団法人日本風工学会 風災害研究会，2011年10月，5.3,5.4節.
- 22 Takashi Maruyama：Reproducibility of strong wind fields by downscaling using calculations by meteorological model, Proceedings of Research Symposium on Full-scale Monitoring for Wind Disaster Mitigation, 2011.11, pp.101-109.
- 23 丸山敬・野田 稔：竜巻による飛散物，日本風工学会誌,Vol.37, No.2(No.131), 2004.10, pp.124-129.
- 24 丸山敬：竜巻のシミュレーション，STRUCTURE, 日本建築構造技術者協会, No.126, 2013.4, pp.34-37.
- 25 丸山敬：2012年5月に北関東で発生した竜巻被害，京都大学防災研究所年報，第56号A, 2013, pp.37-42 .
- 26 内田孝紀・丸山敬・西嶋一欽：複雑地形上の風車サイトを対象にした風況の品質管理と風車の運転制御，日本風力エネルギー学会誌，Vol.38, No.3, 通巻111, pp.344-349, 2014.
- 27 丸山敬：近年の強風災害，災害に強いまちづくり講座－I，平成26年度講演録，一般財団法人京都市防災協会，2014.09.
- 28 丸山敬：第2回講座-近年の強風災害，災害に強いまちづくり講座，平成26年度講演録（合本版），一般財団法人京都市防災協会，2015.03.
- 29 丸山敬：台風や竜巻による強風災害について，配管技術，766 Vol.57. No.6, 2015.5, pp.1-6
- 30 丸山敬：突風被害研究の歩みと突風被害評価研究会の取り組み，日本風工学会誌，Vol.41, No.2 (No.147), 2016年4月, pp.79-80. Progress of study on gust-wind damage and activities by study group of gust-wind damage evaluation.
- 31 丸山敬：飛来物によるガラス破壊の評価法，建築物への衝撃作用による影響と被害の低減対策に関する研究会資料，日本建築学会 構造委員会，2017.11.28